

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	安全な歩行空間整備事業			事業番号	33-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の名	
	土木部	吉野 雅彦	道路整備課	高梨 和美	

計 画 (Plan)						
総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち		
		基本政策	9	快適で暮らしやすいまちづくり		
		施策展開の方向	15	安全で円滑な移動ができるまちをつくる		
		施策	33	安全な交通環境の整備		
予算事業名	歩道設置等整備事業費					
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務	<input type="radio"/> 法定受託事務	(選択してください)→	法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	—	
関連法令等						
国・県の計画等				計画期間		
関連個別計画	伊勢原市道路特定事業計画			計画期間		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	本格的な高齢社会を迎えた現在、高齢者や障害者、全ての人々が、安全で安心して暮らしやすいまちづくりには、安全な歩行空間整備が必要とされている。また、将来を担う児童の通学路の交通安全確保についても、通学路等安全点検を通し、着実かつ効果的な取組の推進が求められている。					
目的 (何をどうしたいのか)	通学路をはじめとする市道の安全で安心な交通環境の向上を図るため、歩道や歩車共存道路等を整備します。					
主な対象 (誰・何を対象に)	市民及び道路利用者					
事業内容 (手段、手法など)	・伊勢原市道路特定事業計画や、通学路等安全点検結果に基づき、歩道整備工事、バリアフリー化道路工事、歩車共存道路整備工事を実施します。					
事業行程	項目	年度				
		令和3年度	令和4年度			
	歩道等整備工事	設計	工事			
	バリアフリー化道路工事	計画調整	測量			
歩車共存道路整備工事	工事	工事				
目 標	【指標名】	【現状値】	年度			
	歩道、バリアフリー化道路及び歩車共存道路の整備済み工事延長		令和3年度	令和4年度		
		9,279m (令和2年度)	11,320m	12,910m		



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	通学路等安全点検や地元要望路線を踏まえ、歩車共存道路整備工事や歩道整備のための道路詳細設計等を実施し、安心して安全に通行できる歩行空間の整備を進めます。			
実施方法 〔選択・記入〕	● すべて直接実施 ○ 左記以外			
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先	
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容	
実施結果	項目	年度		
		令和3年度	令和4年度	
	歩道等整備工事	計画調整	用地・設計	
	バリアフリー化道路工事	計画調整	計画調整	
	歩車共存道路整備工事	工事	工事	
実施した取組の内容	歩道等整備工事は、市道58号線・846号線の物件補償調査、用地取得、市道2703号線の設計業務を行い、計3路線を実施しました。歩車共存道路整備工事にて、市道73号線、市道845号線、市道2号線、市道58号線、計4路線のグリーンベルト設置工事を実施しました。			
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度	
			令和3年度	令和4年度
	歩道、バリアフリー化道路及び歩車共存道路の整備済み工事延長	9,279m (令和2年度)	10,639m	12,026m

コスト	年度	令和3年度 実績				令和4年度 実績				
	内訳	事業費合計 (a)	65,989	千円			108,395	千円		
		国県支出金 ①	34,507	千円			55,377	千円		
		地方債 ②	30,000	千円			51,000	千円		
		その他特財 ③	0	千円			0	千円		
		一般財源 (a)-①-②-③	1,482	千円			2,018	千円		
	国県支出金の内容	防災・安全社会資本整備交付金(補助率:国5.5/10、市4.5/10、国5.0/10、市5.0/10) 通学路緊急対策補助(補助率:5.5/10、市4.5/10)								
	その他特財の内容	受益者負担	○ 有 ● 無		前回の改定時期					
		その他								
	人件費	正規職員	2.06	人	16,851	千円	3.09	人	26,481	千円
		その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)	2.06	人	16,851	千円	3.09	人	26,481	千円
	トータルコスト (a)+(b)				82,840	千円			134,876	千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	市民		単位	市民		単位	
			対象数	101,381		人	101,119		人	
総事業費/対象数				817	円			1,334	円	

評 価 (Check)				
進捗状況 [選択・記入]	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左判断理由	実施計画に従い、歩車共存道路整備工事等を実施し、概ね計画どおりの進捗となりました。
実施水準 [選択・記入]	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市の事業内容等	各自治体の考えや手法が異なるため、一律に比較できません。
有効性 [選択・記入]	<input type="radio"/> 高い (A) <input checked="" type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	B	左判断理由	歩道整備は補助金の内示減もあり、計画どおり工事を行うことができませんでした。また、バリアフリー化道路工事についても測量調査を行いませんでした。歩車共存道路工事については、計画どおり工事を行うことができました。
効率性 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左判断理由	国の交付金及び通学路緊急対策補助を活用し、効率的に事業を実施しています。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)	
所管部長による総評	本格的な高齢社会を迎え、高齢者や障がい者など、全ての人々に対して安全・安心な歩行空間の確保が必要とされています。このため、本事業を継続的かつ効率的に推進していく必要があると考えます。